

古歌に曰く

三八二二番

橘たちばなの寺てらの長屋ながやに 我が率あ寝ねし 童女うなるはな放りはは
髪かみ上げあつらむか

決めて曰く

三八二三番

橘たちばなの照てれる長屋ながやに 我が率あ寝ねし 童女うなるはな放りはに
髪かみ上げあつらむか

長ながのいみき忌おき寸まろ意うた吉麻呂の歌八首

三八二四番

さし鍋なべに 湯沸ゆわかせ子こども 櫟津いちひつの 檜橋ひぼしより来こ
む 狐きつねに浴あむさむ

行むかばき藤あきな、蔓菁すこも、食薦やのうつはり、屋梁よを詠うたむ歌

三八二五番

食薦すこも敷しき 蔓菁あをな煮に持もち来こ 梁うつはりに 行むかばき藤あきな掛かけて
休やすむこの君きみ